

今月のHOTニュース

大地震発生!!その時あなたはどこに?

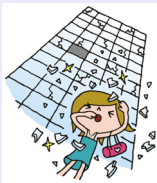
大地震が突然発生したその時、自分がどこにいるのか想定してみましょう。当然のことながら、場所によってとるべき行動も違ってきます。

今回は、大地震がおきたらどう行動したらいいのか、場所別にまとめてみました。

～屋外にいる場合～

◆散策中など

屋外を散策中などに、大きな地震が発生したら、カバンなどで頭部を保護しつつ、身を低くしながら揺れが納まるのを待ちます。近くにビルがある時は、落下物を避けるため、屋内や近くの公園、空地などに避難しましょう。2005年の福岡県西方沖を震源とする地震では、地震によってビルのガラスが割れて、あちこちに落下するということが起こりました。また、ブロック塀や石垣、自動販売機などは倒壊する危険性があるため、近寄らないようにしましょう。



◆山間部・傾斜地

山間部やがけに近い場所、急傾斜地などでは、地震によるがけ崩れ等によって危険が差し迫った場合、避難勧告が発令されます。各自治体の広報やマスコミの情報に注意しましょう。ただし、地震発生後、以下のような兆候が見られたらすぐに避難しましょう。いずれにしても危険な場所から離れて、安全な場所に避難するように心がけることが大切です。

がけ崩れの発生する兆候例

- ・水抜き穴から濁り水が出始める
- ・小石がバラバラと落ちている
- ・がけに亀裂が生じている
- ・水が湧き出てくる
- ・地面にひび割れが生じている
- ・隆起・陥没が生じている

◆地下街

パニックを起こして出口に殺到すると非常に危険です。とにかく落ち着いて行動しましょう。万が一、停電になっても、出入口や非常口への誘導灯が点灯するので、係員の指示に従って行動しましょう。

◆海岸付近

海岸付近は、大きな地震が発生した場合、津波が発生する危険性があります。以下の「津波から身を守る避難のポイント」に沿って、適切な行動をとりましょう。

津波から身を守る避難のポイント（危険が迫ったら）

◆グラツときたら、すぐ避難

強い揺れ（震度4以上）、または、弱くても長くゆっくりとした揺れを感じたら、情報を聞くより先にまず避難。また、地震を感じなくても、警報や注意報を耳にしたら、すぐに避難してください。

◆一刻も早く、高いところへ

津波は凄まじい速さで陸上を駆け登り、家や車をさらっていきます。危険が迫ったら、とにかく一分一秒でも速く、高いところ（避難ビルや高台など）に避難してください。

◆素人判断はしない

津波の前に潮が引くなどよく言われますが、前触れなしにいきなり大きな波が来る場合もあります。過去の経験則を過信して「まだ大丈夫」などと判断するのは危険です。

◆避難先で、正しい情報を得る

安全な場所に避難できたら、ラジオやテレビなどで津波情報を聞きましょう。災害の後にはデマが広まりがちですが、惑わされないこと。正しい情報を得た上で、次の行動に移ってください。

◆危険が去るまで、決して海に近づかない

津波は繰り返し襲ってくるので、警報や注意報が解除されるまでは、決して海岸に近づかないでください。荷物を取りに戻るのには、大変危険です。

（出典：日本損害保険協会「津波防災を考える」）



～乗り物に乗車中の場合～

◆自動車

自動車を運転中に地震が発生した場合は、速度を徐々に落とし、路肩に寄せて停車させてエンジンを切ります。ただし、電線、その他の建造物の付近など、落下物があったり、倒壊したりする危険性のある近くには停めないように気をつけましょう。そして、揺れが納まるまで車内に待機して、ラジオなどから情報を入手しましょう。火災が迫っている場合など、やむを得ず自動車から離れて避難する際には、ドアをロックせず、キーをつけたままにしておきましょう。

◆電車・地下鉄、バスなど

急停車することがあるので、つり革や手すりなどにしっかりとつかまりましょう。途中で停車しても、勝手に非常用レバーを引いてドアを開けて車外に出たり、窓から飛び降り出したりしては危険です。地下鉄では線路上に高圧電線が引いてあったり、対向列車がやって来たりする場合があります。乗務員や係員のアナウンスに従って、落ち着いた行動をとりましょう。集団で出口に殺到して負傷する危険性もあるため、冷静に行動することが大切です。

◆エレベーター

地震によってエレベーターのカゴが揺れている間は身を小さくして揺れを乗り切りましょう。現在のエレベーターには、地震時管制運転装置（注1）が付いているものが多く、地震発生時にはこれが作動するため、揺れさえしのげれば、最寄の階で自動的にドアが開いて避難できます。万が一、エレベーター内で閉じ込められても、非常電話で連絡すれば保守会社などから救援が来るため、慌てずに対応しましょう（注2）。揺れが納まってからも扉が開かない場合は、設置されている非常電話、インターホンなどで管理者に連絡しましょう。非常電話が繋がらない場合は、携帯電話で居場所を家族や知人に連絡して、救援を求める手もあります。いずれにしても、エレベーターの内側から脱出することは不可能なので、体力の消耗を防ぎつつ、辛抱強く救援を待ちましょう。

（注1）地震感知器と連動させた設定値によって、地震発生時にエレベーターのカゴを最寄の階に停止させてドアを開け、乗客の安全を図り、機器の損傷を防止する装置のこと。

（注2）ただし、2005年7月に発生した千葉県北西部を震源とする地震（最大震度5強）では、首都圏内の約28%にあたる6万4,000台のエレベーターが停止して78件の閉じ込め事故が発生。最長約3時間、閉じ込められたケースがあった。

交通安全のポイント

9月は、秋の全国交通安全運動が実施されます。交通安全を確保するためには、ドライバーの皆さんが、交通ルールや安全運転に関する知識を正しく理解しておくことが重要なポイントとなります。そこで今回は、交通ルールや安全運転の知識に関するクイズを作成しましたので、ご自分の理解度をチェックしてみてください。

A 次の各設問について、正しいものには○、誤っているものには×をつけてください。

1. 赤色の灯火の点滅信号のときは、車両等は一時停止して安全を確認した後でなければ進行してはならない。…()
2. レストラン等に入るために歩道を横切るとき、明らかに歩行者がいない場合は一時停止をする必要はない。…()
3. 図1の道路では、左折してAの施設に入ることはできるが、右折してBの施設に入ることはできない。…()
4. 進路の前方が渋滞しているために、交差点内で停止し交差点の車両等の通行を妨げるおそれがあるときは、青信号でも交差点に入らない。…()
5. 図2の標識は、車を運転している人が高齢運転者であることを示している。…()

図1

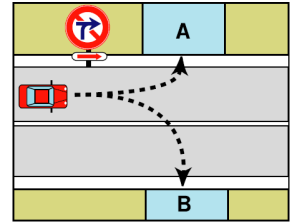


図2



B 次の各設問について、ア～ウのなかから正しいもの一つだけを選んでください。

1. 酒酔い運転の違反点数は、(ア.15点 イ.25点 ウ.35点)である。…()
2. 進路変更時の合図を出す時期は、進路変更する、(ア.1秒前 イ.3秒前 ウ.5秒前)である。…()
3. 道路標識や標示等で速度が指定されていない自動車専用道路における、普通乗用車の法定最高速度は時速(ア.60キロ イ.80キロ ウ.100キロ)である。…()
4. 速度が3倍になれば、衝突時の衝撃力は、(ア.3倍 イ.6倍 ウ.9倍)になる。…()
5. 時速60キロの場合、1秒間に車が走行する距離は、約(ア.13m イ.15m ウ.17m)である。…()

C 次の各設問について、()に入る適切な語句を下欄から選んでください。

1. 夜間は、周囲が暗く速度感が鈍り、実際よりも速度を(①)感じやすい。
2. ヘッドライトの照射範囲は上向きで100m、下向きで(②)mである。
3. 夜間に自車のヘッドライトと対向車のヘッドライトで、道路の中央付近の歩行者等が見えなくなることを(③)といい、対向車のヘッドライトを直接目に受けたとき、まぶしさのために一瞬見えなくなることを(④)という。

ア.速く イ.遅く ウ.50m エ.40m オ.眩惑 カ.暗順応 キ.明順応 ク.蒸発現象

~~~~~ 正解と解説 ~~~~~

A 1-○ 2-× 3-○ 4-○ 5-×

1. 赤色の点滅信号の場合、歩行者は他の交通に注意して進行することができますが、車両等は停止位置において一時停止をして、安全を確認した後でなければ進行できません(道路交通法施行令第2条)。
2. 「車両は、歩道等(歩道または路側帯)に入る直前で一時停止し、かつ、歩行者の通行を妨げないようにしなければならない」と定められており、歩行者がいない場合でも、歩道を横切るときは必ずその手前で一時停止をする必要があります(道路交通法第17条第2項)。
3. 図1の道路には「車両横断禁止」の標識があります。この標識は、道路外の施設等に左折して入る場合を除いて、道路を横断してはならないことを示しています。したがって、左折してAの施設には入れますが、右折してBの施設に入ることはできません(道路標識、区画線及び道路標示に関する命令・別表第一・規制標識)。
4. 「交通整理の行われている交差点に入ろうとする車両等は、交差点に入った場合に交差点内で停止することとなり、交差点道路における車両等の通行の妨害となるおそれがあるときは、交差点に入ってはならない」と定められており、青信号でも交差点への進入はできません(道路交通法第50条第1項)。
5. この標識は、車を運転している人が聴覚障害者であることを示しています(道路交通法施行規則・別記様式)。このほかにも右に示した運転者標識があり、このような標識を表示している車に対して幅寄せや割り込みをしてはいけません。

初心運転者標識	高齢運転者標識
聴覚障害者標識	身体障害者標識

B 1-ウ 2-イ 3-ア 4-ウ 5-ウ

1. 酒酔い運転の違反点数は35点であり、違反行為だけで最低3年間の免許取消しとなります。
2. 進路変更時の合図を出す時期は、進路変更する3秒前です。なお、交差点右左折時の合図を出す時期は、右左折する地点の30m手前です。
3. 高速自動車国道以外の道路における法定最高速度は、自動車の種類に関係なく時速60キロです。自動車専用道路は高速自動車国道ではありませんから、標識等で速度が指定されていない場合の最高速度は、一般道路と同じ時速60キロとなります。
4. 衝撃力は速度の2乗に比例して大きくなりますから、速度が3倍になれば、 $3 \times 3 = 9$ 倍となります。速度の出し過ぎが死亡事故などの重大事故につながりやすいのは、このためです。
5. 時速60キロの場合、1秒間に車が走行する距離は、 $60,000\text{m} \div 3600\text{秒} = 16.7\text{m}$ で、約17mとなります。

C ①-イ ②-エ ③-ク ④-オ

1. 夜間は、速度を実際よりも遅く感じて、速度を出しがちになりますから、スピードメーターで速度をチェックするようにしましょう。
2. ヘッドライトの照射範囲は上向きで100m、下向きで40mです。下向きで走行する場合は、少なくともヘッドライトの照射範囲内で停止できる速度で走行しましょう。
3. 蒸発現象とは、夜間に自車と対向車のライトにより、道路の中央付近の歩行者等が見えなくなることをいいます。道路の中央付近に動くものを見かけたときは、歩行者かもしれないと考えて十分注意しましょう。また、眩惑とは、対向車のライトを直接目に受けたとき、まぶしさのために一瞬見えなくなることをいいます。対向車のライトがまぶしいと感じたときは、視線を少し左に移して眩惑されないようにしましょう。

*「暗順応」とは、明るい所から急に暗い所に入ったとき、最初は物がよく見えないものの、しばらくすると目が暗さに慣れて見えるようになってくることをいい、「明順応」とは、暗い所から急に明るい所に入ったとき、最初は物がよく見えないものの、しばらくすると目が明るさに慣れて見えるようになってくることをいいます。

【取扱代理店】

【住所】

TEL :

FAX :